

## 第5回 大田区基本構想審議会 議事要旨

日時	平成20年3月11日(火) 午後6時~8時
会場	大田区役所 本庁舎8階会議室
出席者	青山委員(会長)、伊藤委員、奥田委員、菊地委員、熊倉委員、幸田委員、菅谷委員、田中(一)委員、田中(常)委員、千原委員、富田委員、中井委員(会長代理)、中島委員、奈須委員、舟久保委員、星野委員、宮澤委員、村松委員、柳ヶ瀬委員(五十音順) 永井顧問、飯田顧問

### 1 開会

- ・ 委員19名、顧問2名の全員が出席いただいている。ありがとうございます。

### 2 基本構想審議会答申について

(1) 序章、第1章(基本理念、将来像)(3ページまで)

#### 【委員】

- ・ 基本理念1は、区民にはハードルが高いと感じる部分がある。修正の意見を出したが変更になっていない。知的障がい、精神障がいなどの障がいを持つ方にとって自ら考えるのはハードルが高い面もあるのではないかと思う。基本理念2、3は主語がはっきりしていないので、区民と行政が協働でやるという感じだが、1は主語が区民になっていて行政と一緒にやるということが感じられない。

#### 【会長】

- ・ 今回の審議会において、合意されたものは修正する。合意されなかったものについては答申書には反映しないが、議事録には残すこととする。

#### 【委員】

- ・ 障がい者も区民であり、自ら考え行動できないことはないと思うし、自ら行動しようとしていると思う。

#### 【委員】

- ・ 「考える」の定義になるかも知れないが、患ったときに自分で考えなさいというのはハードルが高いと思う。

#### 【委員】

- ・ 障がいの有無や種類などに関わらず、自らの考えを持つ区民であるということを出発点にしたほうがいい。線引きするとかえって健常者でなければ自ら考え行動できないように感じられる。

【委員】

- ・ 障がいによっては生活することだけで大変だと感じている人もいるのではないか。

【委員】

- ・ 重い障がいを持つ人も、周りに家族や支えてくれる人がいて、考えや行動を補助している。結果として自ら考え行動するということがよいのではないか。

【委員】

- ・ 区民主体でいこうとしたときに支援を必要とする人を助けるのは当然。自分でやりなさいということではない。後段にある「人と人とのつながり」につながる。

【委員】

- ・ 基本理念 1 は、区民にとって重い内容になるとの問題提起を受けて考えたが、一人ひとりが大切にされる、未来をみんなで築いていくということになるのではないか。

【委員】

- ・ 「大切にされる」というのは自分を大切にすることでもあり、自ら考え行動するということにつながるのではないか。

【委員】

- ・ 基本構想は大きな視野でとらえるべき。そうでないとまとまらない。「個人として尊重されることを基本とし」という文面があるので、広く考えていくべきではないか。

【委員】

- ・ ここで言いたいのは主権在民ということであり、これでよいのではないかと  
思う。

【会長】

- ・ 当初は責任という言葉があったが、それを現在の表現に修正したという経過がある。行政が上から下へということではなく、区民が主体であるという民主主義の論理を表現することが目的だった。ご指摘は記録としてとどめることとし、このままでいきたい。

( 2 ) 第 1 章 基本目標、個別目標、実現するための方策 ( 11 ページまで )

- ・ 特に意見なし

(3) 第2章(13ページ以降)

【委員】

- ・ 13ページ「生活と仕事を両立させる考え方」がワーク・ライフ・バランスなのだとすれば、施策例にある「考え方」は必要ないのでは。

【事務局】

- ・ 施策例を「生活と仕事の両立(ワーク・ライフ・バランス)の考え方の普及」と変更する。

【委員】

- ・ 「必要だと考えます」、「必要があると考えます」は文末表現を統一してはどうか。

【事務局】

- ・ 前後のつながりで全てを統一というわけにはいかないが、言いたいことをうまく表現できるように考えたい。

【委員】

- ・ 18ページ「人権の尊重とセーフティーネットの整備」のところで、文章に「自立や就労、居住環境の整備」となっている。これで前回の意見の反映となるのか。セーフティーネットというのは公的な住宅ということで理解していたが、「居住環境」というのもっと広い意味になってしまうように思う。

【事務局】

- ・ 前回のご指摘は、住宅、家屋ということだったと思う。「住宅環境」というのは住居そのものだったと思うので「住居」と修正する。

【委員】

- ・ 前回の議論を反映すると「居住・住宅環境」ということになるのでは。最後のよりどころとしての「住宅の確保」という言葉を入れないといけないということだったと思う。

【委員】

- ・ 衣食住を守るのは基本的人権につながる。なにかをつくってほしいというのは答申として難しいし、範囲を超えるのではという考えが第2専門部会にあった。国、都、区がそれぞれにやるべきことを広く包んで「居住」とした。セーフティーネットとの表現で包んで、施策の例として「住居」を醸し出す表現にしていだけないか。

【委員】

- ・ 文章から居住環境の整備を除き、その上で施策例として「住居の確保」ということであれば理解する。

**【委員】**

- ・ 人によってセーフティーネットの理解が違うように思う。生活と仕事の両立（ワーク・ライフ・バランス）のように何を意味しているかをはっきり書いておいたほうが分かりやすい。

**【事務局】**

- ・ 「住居環境の整備などを支援する安心できる生活保障（セーフティーネット）を整備することが」としてはどうか。

**【委員】**

- ・ 施策例の中に「セーフティーネット」はいないのでは。

**【委員】**

- ・ 「自立や就労」の支援は、ここではなく、施策例にもっていくことにしてはどうか。

**【会長】**

- ・ それではそのように決定する。

**【委員】**

- ・ 答申の顔にあたる部分が地域力ということで読み取れるが、「区民が地域力をつくる」となるのは、論理が循環しているように感じる。

**【委員】**

- ・ 第3専門部会でも色々議論した。区民一人ひとりの資質、意欲がベースになって、それが合わさることで地域力になっており、それが地域を支える。循環しているといえは循環しているが、もともとは区民が持っている力を引き出して一人ひとりの生活にどのようにプラスになるかというのが基本的な考え方である。

**【会長】**

- ・ 結果と原因の両方があってよいということでもいいか。

**【委員】**

- ・ 32ページ について「一人ひとりの力を結集する」という表現は強すぎるので「合わせる」の方がよいのでは。また、「地域を構成する様々な主体が連携・協働を進めることによって」は「有機的に連携することによって」という感じで、面的な広がりをもたせておく方がよい。産業は だけでなくにも入ったほうがよいのではないか。

**【事務局】**

- ・ 「結集」は、地域をよくしようという目的に向かってそれぞれの力が一つの方向に集まることを想起して、あえて強い言葉を使ったので事務局としては思いがある。

【委員】

- ・ 「結集」や「協働」という表現は、「だれかが掲げた目標に集まれ」と感じてしまう。実際には個々が自立して前に進むということだと思うので、ニュアンスが気になった。

【委員】

- ・ 「結集」は外からの強制的なものを感じてしまう。

【委員】

- ・ 結集という言葉には違和感がある。だれが結集するのかが見えない。もう少し別の表現がよい。連携・協働もケースバイケースで違うので、もう少し違う表現の方がよい。「地域力」は最近言われている言葉で、32 ページでも整理されているが、必ずしも定着している言葉ではない。しかし、これをキーワードにして取り組もうとしているので、定着させるような議論が必要だと思う。

【委員】

- ・ 「地域力」にはもう一つのイメージがある。シンガポールにアントレポリスという名前の起業家や業界リーダーを創出するための組織がある。(よい意味で)とんでもないやつがぞくぞく出て来いというイメージである。そのような文言もあってよいのでは。

【委員】

- ・ 地域力というのは誰かが旗振りをして中心となってやっていかなければ高まらない。自然に何もしないで高まるイメージではないので、そのような感覚が必要ではないか。

【会長】

- ・ 「結集」を避けるかどうか。「協働」はこれからの市民活動で使われる言葉なので、「有機的に連携・協働」にすること、 に「産業」を入れること、いずれも異論はない。

【委員】

- ・ 部会ではやや強めに表現するため「結集」という言葉を使ったが、「合わせる」ということでもよいと思う。 の「連携・協働」はこのままでよいのではないか。「様々な主体が連携・協働することによって」というのもよい。 に産業が入るのもそれでよい。

【委員】

- ・ の「結集」については「合わせる」でよい。 は部会長とおりでよい。もまちにあるものそのものを列挙したようなことなので、部会長と詰めていただければと思う。

【委員】

- ・ 32 ページ下段、「事業者」の説明をあまり具体的にしなくてもよいのでは。

【委員】

- ・ (冒頭をカットし)「専門の資格と能力を持った」から始めてもよいかも知れない。

【顧問】

- ・ 一人ひとりが持てる力を発揮していくことが大前提。それが一つの塊になり、コーディネートされることが必要。それにより「近所の底力」になっていくという感じがする。

【会長】

- ・ 事業者の説明は専門的な技術や資格とまとめてしまうことで修正する。
- ・ 次回はこちらを答申書として提出する。

### 3 審議会終了にあたって

【委員】アートを取り入れて 20 年後の大田区が輝いてほしいという意見を入れていただき嬉しく思っている。空港跡地には、アジアの中継点となる美術館等やメッセージをアートで伝える建物をシンボルとしてつくっていただきたい。

【委員】行政に対して区民が思っていることを端的にまとめた。行政に対する期待は大きなものがある。プロとしてまちづくりや産業政策について、先のことを意識してほしい。今がどうかという議論しかしていないように思う。競争をどうするか、広域計画をどうするかなども見据えてしっかりとやっていただきたい。

【委員】今回は区民公募委員として参加させていただきとても楽しかった。色々なバックグラウンドの方と交流を持つことによって刺激を受け、貴重な体験となった。こうした機会を与えていただき感謝している。大田区には日本、東京をリードできる存在になってもらいたい。

【委員】専門部会の議論でも色々な意見が出たが、中井部会長が中心となりまとめあげていただいた。皆さんのご意見を伺い、自分の財産になった。区議会議員という立場で基本計画にこれからも携わっていく。この議論を踏まえて頑張っていきたい。

【委員】こうした機会は初めてで、色々なところで大きな計画を見るとどこも同じだなと思っていたが、このような手順で吟味されることが分かり、大変なことだということがよく分かった。外国人が多様性を求めて生活していくことは大きな部分を占めると思う。これを政治家の皆様にもうまく生かして立法につなげていただきたい。

【委員】今回の構想では、「地域力」という、人との関わりの話になった。文明が成熟した社会というのはこういうことかと思う。区民として「考えて行動する」ということを勉強させていただいた。

【委員】たくさん勉強させていただいた。基本理念をどのようにとらえればよいのか、分からないところからスタートした。大田区の特徴は何かを初めて勉強した。大田区は前向きに動いている区だと実感した。地域力がある区だと嬉しくなった。目標は夢や希望を集約したもの。それが実現できたら素晴らしいと思う。施策の具体化をして、区民一人ひとりが考えていかなければならないことがよく分かった。主体が区なのかどうか、個人一人ひとりの考え、行動という話が出ていたが、大田区は個人も事業者も一生懸命頑張っている。行政に期待したいのは、それに甘えるのではなく要所を締めて引っ張っていただきたいということである。

【委員】すごくテンポが早くもっとじっくり考えた方がよかったのではと思うところもあったが、区民とも懇談会をすることができたこと、色々な方と意見交換をすることができたのも宝。地域の特性があることも実感できた。アンケート等でも障がい者の方の要望が強く出されており、この基本構想を議員として生かしていけるように取り組んでいきたい。

【委員】20年後の大田区をつくるのは難しい。特に福祉は難しい。どうしても団体にはまってしまう。障がいのあるなしに係らず、広く区民として楽しく面白く生きるということが、色々な障がいを持った人にも大事なこと。苦しんだが、皆さんと色々考えながら施策例もでき、ここで基本構想はよしとしなければいけないのかなと思う。これから着実に基本構想を進めることが行政の責任。施策をしっかり見守っていきたい。

【委員】基本構想をまとめる中で、色々な考えや分野、プライオリティがあることを改めて感じた。それをまとめることの大変さも感じた。答申には「区民が主体」「地域力を生かす」というパラダイムの変化があると認識している。これを実現するための施策は大変だと思うが、そのレベルを超えて大きな変革という意味で行政も区民も、最適な関わり方を模索していくのが大切ではないか。区民も頑張るが、行政や立法が絡み合う中で基本構想が実現していくといいと思う。

【委員】色々な方の意見を聞き勉強させていただいた。答申を20年後に実現できたら素晴らしい大田区になると思う。区議会議員として実現できるように努力する責任がある。自らの身を引き締める思い。33歳ということでもまだ未熟ではあるが、20年後の53歳を見据えて次の基本構想にもぜひ携わっていきたい。

【委員】部会の中で色々な議論があったが、内容のある議論が出来た。基本構想は57年に初めてできた。前の長期基本計画の審議会でもお世話になったが、

今回は「参加できた」という感じがする。四半世紀ぶりに素晴らしい答申ができたと思っている。日本人は何でもお任せしていればよいという意識があったと思うが、戦後60年がたって、国民一人ひとりが主体になってよくしていかなければならないという意識に変わってきている。それが基本理念に端的に表れていると思う。皆さんに感謝申し上げます。

【委員】半年前にインターネットで公募し、羽田空港についてレポートを書いて提出した。どこの部会になるかを考えてなかったが、これからの力になるのは「地域力」だと考えて第3専門部会を選んだ。地域のことを分からなければいけないということで、町会などにも参加し、地域の仕事を始めた。地域とのコミュニケーションが取れて、自分自身でも成果があった。その中で高齢社会ということに気づいた。答申書にまとめたことだけではなく、色々な資料をもう一度今後のステップで参考にさせていただき、その場で終わらせないでほしい。皆様と出会ったことは人生にとってよかったと思う。

【委員】自治会・町会に籍を置いており、少々体験を持っているということで第3専門部会に選ばれたのだと思う。区長がさかんに「地域力の向上と拡大」を力説している。今、地域を預かっている者は高齢化をしているので若い人にバトンタッチをしたいが、若い人は難色を示している。ボランティア意識が低く、利益にならないことはやらないという寂しい世の中になった。32ページにあるとおり、一人ひとりが力を合わせなければ地域力の拡大・向上はない。連携や協働についても地域だけでやる時代ではなくなった。他の団体や組織、企業などと連携をとることで効果的になる。実践している自治会・町会もたくさんある。これまでのやり方ではとても対応できない状況が数年続くだろう。個別目標をこれからどれくらい実現できるか楽しみにしている。早い時期に一つずつクリアしていただけると大変うれしい。

【委員】立場も考えも違うメンバーの中で一定の方向性を共有できたのは素晴らしい。部会でも主張できたし、お互いの考えも尊重できた。「区」という、実態があるようでないようなものについて、どうすればもっと活性化するのかを考えるのは難しいが、この会を通して一人ひとりの思いが大切だと思った。20年後、議員であっても区民であっても、どんな立場でもこの構想が実現するように力を注げればと思っている。感謝申し上げます。

【顧問】基本構想は大田区における羅針盤。それを区民の参画のもとでできたことは有意義なこと。4回も区民との意見交換会をやるのは大田区だけかも知れないということを会長から言っていたが、大田区方式ということで誇らしげでもある。それを続けていくことが大切。区長が20年ぶりに代わった。新しい船出をして1年になる。民間出身ということで新しい発想のもとで行政を進めていく。大田区はまさに変化の時を迎えており、そのような時に構想ができた

のは意義があること。ありがとうございました。

【顧問】出来上がったものが実現し、大田区が豊かになればよい。孫たちにどのようなまちを伝えていくのかということを考えながら、29年議員をやってきた。このような機会を与えていただき、勉強させていただいた。これからもよろしくをお願いしたい。

【部会長】短い期間の中でよく答申がまとまったと思う。基本構想は抽象度の高い議論で上位概念を規定するもの。すぐに解決しなければいけない議論と抽象論をつなぐことが難しい。基本構想を考える審議会と、実際に地域で起きていることの距離感を保つのは難しい。そういう意味で懇談会は緊張感があって参考になった。「協働」「地域力」などの抽象的な言葉と、地域で起きている現場の臨場感をどのように解きほぐしていくかがこれからなので、お手伝いできればと思う。

【部会長】福祉、教育、文化など、どれも暮らしに関わる事項で、委員の体験や経験をもとに、色々な観点からの議論が出された。20年後の大田区を考える際、自分は80歳を超え、今年生まれた人が成人式であるということを念頭に置いて、と思った。具体の施策や問題意識は出やすいが、それを昇華させるのは委員も苦労した。施策をイメージして目標につなげるまでに時間がかかった。基本目標を実現するには、国や都にもものを言わないといけないこともある。それぞれの役割と同時に、団体自治と同時に住民自治もあるということを考えていかなければならない。区がやるべきこと、都がやるべきこと、も部会の議論にあったので、「大切です」「必要と考える」「ぜひ検討すべき」という言葉を使って表現させていただいた。そういう思いがあるということでご理解をいただければと思う。皆さんに大変お世話になった。ありがとうございました。

【部会長】部会長としてこのような審議会に参加するのは初めて。「地域力」という抽象的な言葉で、委員の協力を得て濃密な議論をすることができた。住民との意見交換会で司会をしたことも、得がたい経験をさせていただいた。抽象的な地域力と具体の環境。両者の関係を議論するときにトーンを変えざるを得ないところがあった。これから基本構想を具体化する上では「職員力」「議員力」も試されると考えている。今後は研究者の立場で大田区の動きを見つめ、総合的に分析していきたいと考えている。

#### 4 会長あいさつ

【会長】大田区は非常に大きい自治体。面積も大きい。人口もいくつかの県よりも大きい。羽田空港を持っているのみならず、日本を代表する住宅地や日本的な住宅もある。交通の結節点でもある。地域力というテーマを一つの中心に据えたのは象徴的で、こんな大きな区であるのに直接参加も取り入れているこ

とが素晴らしい。日本のコミュニティの力は欧米に比べると相当大きいと思う。ニューオリンズの復興プロジェクトを手伝っているが、まだ住民が半分くらいしか戻ってきていない。住宅プロジェクトもほとんど進展していない。それは地域力がなかったからだと思う。地域力が弱い地域は、いざというときに脆弱性を露呈する。地域力というのは究極のときに力を発揮する場合がある。世界一災害が多い日本において、これを中心に据えることができ、今できる最良のものをまとめていただいた。部会を7回やったのは大変だったと思う。委員の皆さん、先生方、部会長の皆さん、事務局、ありがとうございました。また、傍聴者の皆様には、毎回熱心に傍聴していただいたことでオープンな形で会議を開催することができ、また、ご意見もいただき参考になった。どうもありがとうございました。

【事務局】先生方には9月から6ヶ月間、大変充実した議論をいただきありがとうございます。庁内では、審議会の流れに沿って検討会がスタートし、勉強してきた。職員の動機付けという意味でも役立ち、風通しもよくなった。基本計画に盛り込むものをつくる素地ができた。ほっとするとともに感慨深い。これからが行政マンとしての資質が問われるので責任も感じる。皆様のご尽力に感謝申し上げます。

以上